



平成30年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年11月13日

上場会社名 ワイエスフード株式会社
 コード番号 3358 URL <http://www.ys-food.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 0947-32-7382

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	856	4.2	34		41		45	
29年3月期第2四半期	894	3.7	12		14		22	

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 35百万円 (%) 29年3月期第2四半期 26百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	11.85	
29年3月期第2四半期	5.68	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第2四半期	4,108	1,794	43.7
29年3月期	4,027	1,848	45.9

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 1,794百万円 29年3月期 1,848百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		5.00	5.00
30年3月期		0.00			
30年3月期(予想)				5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,861	3.8	56		46		32		8.42

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期2Q	3,873,000 株	29年3月期	3,873,000 株
期末自己株式数	30年3月期2Q	株	29年3月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期2Q	3,873,000 株	29年3月期2Q	3,873,000 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、緩やかな回復基調が続いたものの、国内の生活物価の上昇や国外における政治・経済の不透明感の増大等により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

外食産業におきましても、消費者の節約志向は依然として強く、食の安心・安全だけでなく、同業種はもとより他業種との店舗間競争が一層激しくなるとともに、原材料価格の高騰や人手不足を背景とする人財コスト及び物流コストの上昇が続いていることに加え、7月の「九州北部豪雨」や台風列島縦断等の天候不順による客足への影響等、当社グループを取り巻く経営環境は厳しさを増しております。

このような状況の中、当社及び当社グループにおきましては、「一杯のラーメンをお客様に満足していただく」という創業当時の理念にのっとり、「美味しさと快適な食の空間」の追求、「食の安心・安全」の維持向上に取り組む、お客様一人一人に誠実であり続けることに、より一層邁進してまいるとともに、過去の成功体験に依存することなく、市場動向に合わせ、既存事業の運営体制の見直しによる収益構造の改善及び新規事業の創出、新規市場への進出を進めると同時に、外食事業におきましては、既存ブランドである「山小屋」「ばさらか」とは異なるオリジナルブランドでの出店を実行する等、従来の枠にとらわれない事業領域の再構築を進めてまいりました。

なお、平成29年9月11日～同年11月5日の期間、地元ラジオ局とのタイアップ企画として、「キーマカレー餃子」の商品開発をするとともに、当該商品の売上高の一部を7月に発生しました「九州北部豪雨」の義援金として寄付する予定としております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、「九州北部豪雨」等の天候不順に加え、人手不足を背景とする営業時間の短縮等が起因となり、前年同期比4.2%減の856百万円となり、営業利益におきましては、新基幹システム導入費用等の影響もあり、営業損失34百万円（前期は営業損失12百万円）、経常損失41百万円（前期は経常損失14百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失45百万円（前期は親会社株主に帰属する四半期純損失22百万円）となりました。

報告セグメントの業績は次のとおりであります。

(外食事業)

当第2四半期連結累計期間におきましては、「九州北部豪雨」等の天候不順に加え、人手不足を背景とする営業時間の短縮等が起因となる店舗売上高及び食材取引高の減収はあったものの、新規顧客獲得と既存顧客のリピーター率向上を図るため、「餃子190円」及び「餃子半額」に加え、地元ラジオ局とのタイアップ企画となる「キーマカレー餃子」といった餃子をメインとした販促セールを実施したこと、さらに、当社の食材を活用した「定食メニュー」に加え夏季限定メニューとして「香味醤油 汁なしラーメン」及び「冷やし中華」を導入する等、店舗売上高及び食材出荷の増加に努めてまいりました。

また、平成30年3月期の経営戦略であります「国内店舗の純増」への取り組みとして、加盟希望者が低資本・低リスクでの出店を可能とすべく、居抜き店舗を活用した、既存の「山小屋」、「ばさらか」ブランドとは異なった低予算型のオリジナルブランドの確立へ取り組んだ結果、北九州地区において3店舗をオープンし、新たな収益源の基盤を構築してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は767百万円（同6.9%減）となり、営業利益22百万円（同23.1%減）となりました。

なお、当第2四半期連結会計期間末の店舗状況は、前連結会計年度末に比べ3店舗減少し160店舗（直営店4店舗、F C店111店舗、海外45店舗）となりました。店舗数の増減については、オリジナルブランド3店舗を含む6店舗（F C店3店舗、海外3店舗）の新規出店及び、中途解約による店舗の閉店9店舗（F C店4店舗、海外5店舗）であります。

(不動産賃貸事業)

当社が所有する店舗用地等の有効活用を目的とした賃貸事業を行っており、当第2四半期連結累計期間の売上高は33百万円（同2.9%増）となり、営業利益17百万円（同74.9%増）となりました。

(外販事業)

ラーメン等の製品を主要販売品目とする外販に加え、インターネット通販サイトにおける通信販売及び一般小売先向け卸し、委託販売による小売りを行っております。当第2四半期連結累計期間における外販事業の売上高は27百万円（同57.2%増）となり、営業損失21百万円（前期は営業損失22百万円）となりました。

(美容・健康事業)

連結子会社株式会社日本美容研究所が取り扱うプライベートブランドを用いて、国内外におけるファスティングスタジオの事業展開を進めております。また、同社の美容関連・健康食品両分野において、コールセンターを用いての販売促進を行うと同時に、インターネット通販サイトにおける通信販売およびドラッグストア・免税店等の一般小売先向け卸し、委託販売による小売りを行っております。

なお、当第2四半期連結累計期間における美容・健康事業の売上高は5百万円（前期は売上高の発生はありません。）となり、営業損失18百万円（前期は営業損失0百万円）となりました。

(その他)

当社は、飲食店用の厨房設備の販売を、FC加盟店などに行っております。

連結子会社株式会社Zing'sは、デザイン事業を行っております。

当第2四半期連結累計期間におけるその他事業の売上高は22百万円（同17.7%増）となり、営業損失0百万円（前期は営業利益3百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は1,071百万円となり、前連結会計年度末に比べ83百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が58百万円、商品及び製品が18百万円増加したこと等によるものであります。また、固定資産は3,036百万円となり、前連結会計年度末に比べ2百万円減少いたしました。これは主に、投資有価証券が24百万円、投資その他の資産のその他に含まれる保険積立金が7百万円増加したものの、有形固定資産が35百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、総資産は4,108百万円となり、前連結会計年度末に比べ80百万円の増加となりました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は1,032百万円となり、前連結会計年度末に比べ5百万円減少いたしました。これは主に、未払法人税等が3百万円及び買掛金が1百万円減少したこと等によるものであります。また、固定負債につきましては、長期借入金の純増等の理由から、前連結会計年度末に比べ140百万円増加し、1,282百万円となりました。

この結果、負債合計は2,314百万円となり、前連結会計年度末に比べ135百万円の増加となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は1,794百万円となり、前連結会計年度末に比べ54百万円減少いたしました。これは主に、四半期純損失が45百万円及び配当金の支払が19百万円あったこと等により利益剰余金が65百万円減少したこと及びその他有価証券評価差額金が10百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、自己資本比率は43.7%（前連結会計年度末は45.9%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ43百万円増加して606百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、支出した資金は31百万円（前年同四半期連結累計期間は7百万円の支出）となり、前年同四半期と比べて24百万円支出が増加する結果となりました。

これは主に、売上債権の回収が前年同四半期に比べ52百万円増加したものの、棚卸資産が前年同四半期に比べ20百万円増加したことに加え、仕入債務におきましても、前年同四半期に比べ16百万円減少したこと、さらに、税金等調整前四半期純損失が前年同四半期に比べ29百万円の減益となったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、支出した資金は75百万円（前年同四半期連結累計期間は61百万円の支出）となり、前年同四半期と比べて14百万円支出が増加する結果となりました。

これは主に、貸付による支出が16百万円増加したこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、獲得した資金は151百万円（前年同四半期連結累計期間は8百万円の獲得）となり、前年同四半期と比べて142百万円の増加となりました。

これは主に、長期借入れによる収入が144百万円純増したこと等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の連結業績予想につきましては、現時点において平成29年5月15日に公表致しました連結業績予想の変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	619,760	678,713
売掛金	185,472	156,478
商品及び製品	122,917	141,312
仕掛品	1,416	1,739
原材料及び貯蔵品	13,729	13,875
その他	49,909	82,805
貸倒引当金	△4,593	△3,280
流動資産合計	988,612	1,071,645
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	959,518	938,235
機械装置及び運搬具(純額)	35,121	33,747
土地	1,585,604	1,573,736
その他(純額)	10,703	9,743
有形固定資産合計	2,590,947	2,555,462
無形固定資産		
その他	81,673	77,154
無形固定資産合計	81,673	77,154
投資その他の資産		
投資有価証券	142,181	166,263
繰延税金資産	1,023	901
敷金及び保証金	107,439	104,792
その他	166,559	184,736
貸倒引当金	△50,720	△52,378
投資その他の資産合計	366,484	404,316
固定資産合計	3,039,105	3,036,933
資産合計	4,027,717	4,108,578

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	83,001	81,909
短期借入金	200,000	200,000
1年内返済予定の長期借入金	493,132	523,645
未払法人税等	10,481	6,728
賞与引当金	11,421	11,781
ポイント引当金	632	614
その他	239,433	207,442
流動負債合計	1,038,102	1,032,122
固定負債		
長期借入金	861,725	1,001,803
退職給付に係る負債	65,182	65,336
役員退職慰労引当金	50,586	52,418
資産除去債務	46,451	45,967
その他	116,816	116,773
固定負債合計	1,140,762	1,282,299
負債合計	2,178,865	2,314,422
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,002,050	1,002,050
資本剰余金	831,588	831,588
利益剰余金	2,747	△62,502
株主資本合計	1,836,386	1,771,135
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,198	26,656
為替換算調整勘定	△978	226
退職給付に係る調整累計額	△4,754	△3,863
その他の包括利益累計額合計	12,465	23,020
純資産合計	1,848,852	1,794,156
負債純資産合計	4,027,717	4,108,578

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	894,218	856,451
売上原価	476,328	449,855
売上総利益	417,889	406,595
販売費及び一般管理費	429,947	441,128
営業損失(△)	△12,057	△34,532
営業外収益		
受取利息	2,777	2,571
受取配当金	160	160
協賛金収入	1,424	—
違約金収入	396	1,178
その他	1,668	2,594
営業外収益合計	6,427	6,505
営業外費用		
支払利息	7,819	7,028
持分法による投資損失	—	2,454
貸倒引当金繰入額	△152	769
その他	1,016	3,058
営業外費用合計	8,684	13,310
経常損失(△)	△14,315	△41,338
特別利益		
固定資産売却益	—	427
特別利益合計	—	427
特別損失		
固定資産除却損	—	370
減損損失	—	2,200
特別損失合計	—	2,571
税金等調整前四半期純損失(△)	△14,315	△43,481
法人税、住民税及び事業税	2,415	2,281
法人税等調整額	5,272	122
法人税等合計	7,687	2,403
四半期純損失(△)	△22,003	△45,885
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△22,003	△45,885

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純損失(△)	△22,003	△45,885
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5,088	8,457
退職給付に係る調整額	299	891
持分法適用会社に対する持分相当額	—	1,204
その他の包括利益合計	△4,789	10,554
四半期包括利益	△26,792	△35,331
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△26,792	△35,331
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△14,315	△43,481
減価償却費	50,265	50,734
減損損失	—	2,200
貸倒引当金の増減額(△は減少)	171	345
賞与引当金の増減額(△は減少)	△12,828	360
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	1,817	1,831
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	559	1,046
受取利息及び受取配当金	△2,938	△2,732
支払利息	7,819	7,028
持分法による投資損益(△は益)	—	2,454
売上債権の増減額(△は増加)	△23,176	28,993
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,934	△18,863
仕入債務の増減額(△は減少)	15,223	△1,091
その他	△24,194	△51,526
小計	338	△22,701
利息及び配当金の受取額	2,821	2,469
利息の支払額	△7,826	△7,037
法人税等の支払額	△2,500	△4,642
営業活動によるキャッシュ・フロー	△7,166	△31,910
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△28,002	△15,006
有形固定資産の取得による支出	△13,765	△20,713
無形固定資産の取得による支出	△13,068	△16,289
有形固定資産の売却による収入	—	12,295
貸付けによる支出	△1,668	△18,500
貸付金の回収による収入	3,371	3,876
敷金及び保証金の差入による支出	△33	△1,418
敷金及び保証金の回収による収入	2,102	2,850
関係会社株式の取得による支出	△4,995	△14,474
その他	△5,101	△8,006
投資活動によるキャッシュ・フロー	△61,159	△75,386
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	300,000	450,000
長期借入金の返済による支出	△273,922	△279,409
配当金の支払額	△17,724	△19,345
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,353	151,244
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△59,973	43,947
現金及び現金同等物の期首残高	822,000	562,237
現金及び現金同等物の四半期末残高	762,027	606,184

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	外食事業	不動産 賃貸事業	外販事業	美容・ 健康事業	計				
売上高									
(1)外部顧客に対する 売上高	825,686	32,266	17,518	—	875,471	18,747	894,218	—	894,218
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	48	—	—	—	48	473	521	△521	—
計	825,734	32,266	17,518	—	875,519	19,220	894,740	△521	894,218
セグメント利益 又は損失(△)	29,422	9,949	△22,460	△705	16,206	3,094	19,300	△31,358	△12,057

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食店用の厨房設備の販売、デザイン事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△31,358千円には、セグメント間取引消去106千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△31,465千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	外食事業	不動産 賃貸事業	外販事業	美容・ 健康事業	計				
売上高									
(1)外部顧客に対する 売上高	767,973	33,225	27,551	5,632	834,383	22,068	856,451	—	856,451
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	28	166	—	—	194	722	916	△916	—
計	768,001	33,392	27,551	5,632	834,578	22,790	857,368	△916	856,451
セグメント利益 又は損失(△)	22,624	17,404	△21,577	△18,987	△535	△493	△1,028	△33,504	△34,532

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食店用の厨房設備の販売、デザイン事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△33,504千円には、セグメント間取引消去415千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△33,919千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度において重要性が増したため、「美容・健康事業」を報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「外食事業」セグメントにおいて、閉店店舗に係る建物等について、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において、2,200千円であります。